

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 102 3月号

2014年3月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.94

「人生最後に読みたい本」 揖保川町 横家 伸一

最後の晩餐とは、キリスト教の新約聖書に書かれたイエス・キリストが処刑される前夜に12名の弟子たちと摂った食事のことだ。

それになぞらえ、人は死ぬ前に何を食いたいかを問うテレビの料理番組があった。

もし、人生の最後に読みたい本は、と問われれば私は一体どの本にするだろう。あの世に行く前だからそれに相応しい本を選びたい。

親鸞の教えの『歎異抄』にするか。それとも、あの世で悟りを開く『碧巖録』にすべきか。いやいや、今さら仏に縋るのは虫がよすぎる。どうせ、蓮の台^{うてな}には座らせてもらえそうもない。地獄を垣間見る芥川龍之介の『蜘蛛の糸』にしようか。

もし、極楽に行かせてもらえるのなら千年の名作である紫式部の『源氏物語』もいい。しかし、極楽の天女の前では藤壺や葵の上の美貌もかすむことだろう。

やはり、ここは痛快娯楽の池波正太郎の『鬼平犯科帳』、藤沢周平の『用心棒日月抄』にするか。青春の思い出、北杜夫の『どくとるマンボウ青春記』もいい。松本清張の『砂の器』も捨て難い。銀幕に映った日本の田舎の原風景に作曲家菅野光亮の「ピアノと管弦楽のための組曲宿命」は素晴らしかった。

平凡な人生を振り返る時、人生の本質を問う芹沢光治良の『人間の運命』も値する。

本市出身で戦艦比叡の艦長だった西田正雄海軍大佐を描いた相良俊輔の『怒りの海』か、田中静彦陸軍大将が登場する大宅壮一の『日本のいちばん長い日』も読んでおきたい。2人に会ったら聞いてみたい。戦争の無為を。

いや、私にふさわしいのは無機質な「時刻表」であろう。その中に、旅の夢が一杯詰まっている。やはり、私はこれに決めよう。



※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『誕生日を知らない女の子 虐待—その後の子どもたち』 黒川 祥子 著 集英社



新聞やテレビでは、毎日のように児童虐待による死亡事件が伝えられる。その度に、何とかして防げなかったのかという思いに駆られるが、その報道の陰には、地獄のような生活から保護された児童が2012年10

月現在で約4万7千人もいるという。著者は、保護された子どもたちのその後を訪ね、児童虐待の本質に迫った。

国は、施設一辺倒の養育から、安定した人間関係の下での養育を重視したファミリーホームや里親での養育へと方針を転換した。そのファミリーホーム「横山ホーム」で暮らす3年生の美由ちゃんは、5歳まで自分の誕生日を知らなかったと明るく話す。保護された直後は一言もしゃべらず、表情は全くなく能面のようなだった。少しずつなじんでからも、何かあると感情のスイッチを切り、「解離」と呼ばれる症状を引き起こす。心身の統一が崩れて記憶や体験がバラバラになる現象の総称である。美由ちゃんは、あま

りにもつらい体験を「感じない」ようにして自分から切り離し、生き延びてきた。また、幻聴もひどく、薬を飲んでも、お母さんのコワイ声に悩まされる日々が続いた。このような「虐待の後遺症」は根深く、まるで防衛本能が研ぎ澄まされた野生動物のように、反射的な暴力的行動や解離などの症状となって、しばしば里親たちを苦しめるという。

それでもなお、子どもたちに寄り添おうとする里親たちの思いや、必死に「虐待の後遺症」とたたかう子どもたちの姿勢に心を打たれる。理解し受け止めてくれるあたたかい存在がいれば、その子の人生が救われるのだという事実がひしひしと伝わってくる。

親から恐怖や痛みしか与えられてこなかった子どもたちの現実から目を逸らしてはならないと著者はいう。「子どもの側」から虐待の事実を見ていくという視点を持つこと—私たち大人が負うべき責任を再確認させられる一冊である。

(龍野図書館 藤川)

トピックス

わらべうたを楽しもう!!

親子でいっしょに、わらべうたや手遊びを楽しみましょう。
親子でも、大人だけでも参加できます。

日時 3月 7日(金)

0・1・2歳児とその保護者で、わらべうたや手遊びをします。

3月14日(金)

ボランティア活動をされている方や、興味のある方を対象にした講座です。

※どちらも午前10時～午前11時30分

講師 稲田 尚子 氏 (芦屋学園短期大学非常勤講師)

会場 御津図書館

定員 7日: 15組

14日: 30名

申込先 御津図書館 (先着順、電話可)



おすすめする子どもの本・95

『ジャイアント・ジョン』 アーノルド・ローベル 作 文化出版局

まほうの森にジャイアント・ジョンという大きな大きな男の子が、おかあさんや妖精たちと住んでいました。妖精たちがジョンにまほうの音楽をきかせると、ジョンのからだは自然に動き、踊って踊って、踊り続けるのでした。ジョンも踊るのが楽しくて、足がどんなに痛くなっても平気でした。

ある晩のこと、おかあさんにもう食べ物もお金もないと言われたジョンは、仕事をさがしにでかけます。ずいぶん遠くまで歩いたジョンは、りっぱなお城にたどりつき、さっそくはたらくことにしました。雨の日にはお城に傘をさし、暑い日には涼しい風を送り、毎日お城のほこりをはらい、きれいにふきました。

仕事も終わりに近づき、

お城の王さまたちとピクニックをしていたジョンのところへ、おおぜいの妖精たちが飛んできました。ジョンがいなくてさびしかった妖精たちは、すぐにまほうの音楽をはじめました。ジョンは踊りだし、花や木や、犬のしっぽを踏みつけ、最後にはお城を壊してしまいます。「やめてったらやめて！」ジョンはさけび、妖精たちはばたっと音楽をやめました。ジョンはいっしょうけんめいお城を直し（そっくりおなじとはいきませんでした）、王さまたちは「いいお城になった」と喜びました。

穏やかで心優しいジョンの物語が、親しみやすくやわらかいタッチの絵で描かれています。読んであげるなら4歳くらいから。
(御津図書館 西田つ)

『三月ひなのつき』 石井 桃子 作 朝倉 摂 絵 福音館書店

10才のよし子が今一番ほしいものはおひなさまです。けれども2年前に亡くなった父に代わって仕立物をして生計をたてている母さんに、聞きいれてもらえません。母さんにはおひな様に対する特別な思い入れがありました。母さんは小さい時に木彫りの寧楽びなを持っていましたが、空襲で焼けてしまったのです。それは、引っ越しがちの孫娘が寂しがらないようにとおばあさんが人形師に頼んで作ってもらったものでした。数十センチの赤茶の漆塗りの箱には、白木のひな壇も内裏びなや官女、楽人、随人、仕丁、小道具までが収められており、この人形達は良い遊び相手となりました。

母さんは自分の娘のために気になっているものが見つからないままきてしまいましたが、よし子は自分のためのおひなさまがほしいのです。涙ながらに話すよし子のために、二人で大きな店まで行きましたが探せませんでした。母さんはよし子に自分のおひな様と陳列してあるおひな様との違いについて、心がこもっているものの説明しがたい価値について語ります。その時に、よし子は母さんの話がというより気持ちがわかったような気がしました。

そしてひなまつりの日、家へ帰ったよし子を迎えたのは2種類のおひなさまでした。

おひなさまへの思いを通して、母娘が互いの気持ちをより深くわかり、いたわり合うまでの経過や、受け継がれていく家族の暮らしぶりが丁寧に描かれています。

小学校3年生くらいから。

(新宮図書館 大西)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	3月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	0～3歳児、保護者 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	8日・15日 『おおきなかぶ』他
	子どもの本を読む会	一般 第2木曜日(10時～11時30分)	13日 『フクロウ物語』 モーリー・バケット 著
	読書会	一般 第2金曜日(10時～11時30分)	14日 『ステップ』 重松 清 著
	貴重本一般公開と龍野美術協会日本画作品展 【場所】 龍野図書館 2階 貴重本公開【日時】22日(土)・23日(日) 11時～15時 龍野美術協会作品展【日時】18日(火)～23(日) 10時～18時(23日のみ15時まで)		
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 第2・第4月曜日(11時～11時20分)	10日・24日 『サンドイッチ サンドイッチ』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ 土曜日(11時～11時30分)	1日・8日・15日・22日 『くんちゃんのはじめてのがっこう』他
	講演会「顕微鏡から見える未来」 講師 小嗣 真人 氏 (公益財団法人高輝度光科学研究センター) イトワ粒子の分析など、第一線で活躍するスプリング8の若手研究者が、隕石の研究から見えてきた次世代エコカーや記憶媒体などの未来について、やさしく教えてください。簡単な実験付き 【日時】3月16日(日)10時30分～12時 【対象】一般(中学生以上) 【募集人数】40名 (※要申込)		
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	8日・15日 『きょうのおべんとうなんだろな』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	8日・15日 「田の久」他
	読書会	一般 第3金曜日(10時～12時)	21日 『犠牲』 柳田 邦男 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	0歳児～、保護者 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	9日・16日 『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』他
	読書会	一般 第2火曜日(13時30分～15時30分)	11日 『漂砂のうたう』 木内 昇 著